



## 2021年7月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年6月11日

上場会社名 株式会社鳥貴族ホールディングス  
コード番号 3193 URL <http://www.torikizoku.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大倉 忠司  
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営管理部部長 (氏名) 小畑 博嗣

TEL 06-6562-5333

四半期報告書提出予定日 2021年6月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年7月期第3四半期の連結業績(2020年8月1日～2021年4月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年7月期第3四半期	14,243		2,588		2,027		1,463	
2020年7月期第3四半期								

(注) 包括利益 2021年7月期第3四半期 1,472百万円 ( %) 2020年7月期第3四半期 百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円 銭	円 銭
2021年7月期第3四半期	126.33	
2020年7月期第3四半期		

当社は、2021年7月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2020年7月期第3四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年7月期第3四半期	16,207	4,232	26.1
2020年7月期			

(参考) 自己資本 2021年7月期第3四半期 4,232百万円 2020年7月期 百万円

当社は、2021年7月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2020年7月期の数値については記載しておりません。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年7月期		4.00		0.00	4.00
2021年7月期		0.00			
2021年7月期(予想)					

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2021年7月期の連結業績予想(2020年8月1日～2021年7月31日)

2021年7月期の連結業績予想につきましては、2021年5月12日に公表いたしました「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」に記載のとおり、「未定」としてあります。業績予想の合理的な見通し数値を算定できる状況になりましたら、速やかに開示いたします。

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有  
新規 1 社 (社名) 株式会社鳥貴族 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年7月期3Q	11,622,300 株	2020年7月期	11,622,300 株
期末自己株式数	2021年7月期3Q	34,764 株	2020年7月期	34,764 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年7月期3Q	11,587,536 株	2020年7月期3Q	11,587,538 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

2021年7月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、現時点において当社の事業活動への影響を適正かつ合理的に算定することが困難であるため、「未定」としております。業績予想の合理的な見通し数値を算定できる状況になりましたら、速やかに開示いたします。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	4
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	4
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(企業結合等関係) .....	6
(追加情報) .....	8
(セグメント情報等) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済活動の抑制により、景気は急速に悪化し極めて厳しい状況となりました。特に外食業界におきましては、2020年4月に出された緊急事態宣言解除以降、個人消費は回復の兆しもみられていたものの、2020年11月には東京都、大阪府、愛知県では、アルコール提供を行う飲食店への営業時間短縮要請が出され、2021年1月には再度、緊急事態宣言がなされ一度は解除されたもののまん延防止等重点措置や三度目の緊急事態宣言が都市部を中心に出了ることにより、特に居酒屋業界におきましては、酒類提供自粛要請や営業時間の大幅な制限により多大な影響を受けております。

当社グループにおきましては、2020年5月の緊急事態宣言解除以降、お客様と従業員の安全を第一に感染症対策を徹底しながら店舗運営を再開致し、各自治体の自粛要請等が解除されると売上高は徐々に回復したものの、再度、政府及び各自治体からの営業時間短縮要請を受け時短営業を実施し、酒類提供自粛要請が出された地域の店舗においては休業しております。これにより、当第3四半期連結累計期間における既存店売上高は前年同期比62.1%となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間は1店舗の新規出店と13店舗の退店により、当第3四半期連結会計期間末日における「鳥貴族」の店舗数は617店舗となりました。当社グループの直営店は、8店舗退店し385店舗となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間は、東京・大阪・愛知をはじめとした営業時間短縮要請等が大きく影響し、売上高は14,243,914千円、売上総利益は9,879,441千円となりました。売上高減少に併せて変動費を中心としたコスト管理に徹底して取り組んだこと等により、販売費及び一般管理費は12,467,693千円に抑えられたものの、売上高減少の影響が大きく、2,588,252千円の営業損失となりました。また、感染拡大防止協力金等による助成金収入388,752千円を計上したこと等により、経常損失は2,027,009千円、親会社株主に帰属する四半期純損失は1,463,834千円となりました。

なお、当社グループは飲食事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は16,207,348千円となりました。流動資産は6,528,888千円となり、その主な内訳は、現金及び預金5,543,126千円であります。固定資産は9,678,460千円となり、その主な内訳は、有形固定資産6,020,272千円、繰延税金資産1,825,868千円であります。

一方、負債合計は11,974,956千円となりました。流動負債は4,344,628千円となり、その主な内訳は、1年内返済予定の長期借入金1,299,898千円、未払金839,487千円であります。固定負債は7,630,328千円となり、その主な内訳は長期借入金6,393,721千円、資産除去債務1,085,625千円であります。

純資産合計は4,232,391千円であり、利益剰余金は1,319,714千円となりました。

なお当社グループは当第3四半期連結会計期間より連結決算に移行いたしました。そのため、前連結会計年度に四半期連結財務諸表及び連結財務諸表を作成していないことから、(1)経営成績に関する説明、(2)財政状態に関する説明において対前年四半期及び前期末との比較を省略しております。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年7月期の連結業績予想につきましては、2021年5月12日に公表いたしました「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」に記載のとおり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言やまん延防止等重点措置による酒類提供の自粛要請等を踏まえ、2021年4月25日以降は対象地域の直営店で臨時休業せざるを得ない状況となるなど、コロナ禍の先行きが不透明であることから「未定」としております。業績予想の合理的な見通し数値を算定できる状況になりましたら、速やかに開示いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

当第3四半期連結会計期間 (2021年4月30日)	
<b>資産の部</b>	
流動資産	
現金及び預金	5,543,126
売掛金	188,877
たな卸資産	87,993
その他	708,890
流動資産合計	6,528,888
固定資産	
有形固定資産	
建物(純額)	5,588,295
その他(純額)	431,976
有形固定資産合計	6,020,272
無形固定資産	47,306
投資その他の資産	
繰延税金資産	1,825,868
その他	1,785,013
投資その他の資産合計	3,610,882
固定資産合計	9,678,460
資産合計	16,207,348
<b>負債の部</b>	
流動負債	
買掛金	548,138
1年内返済予定の長期借入金	1,299,898
未払金	839,487
未払法人税等	48,452
賞与引当金	162,951
株主優待引当金	26,478
資産除去債務	3,093
その他	1,416,128
流動負債合計	4,344,628
固定負債	
長期借入金	6,393,721
役員株式給付引当金	10,662
退職給付に係る負債	34,577
資産除去債務	1,085,625
その他	105,741
固定負債合計	7,630,328
負債合計	11,974,956
<b>純資産の部</b>	
株主資本	
資本金	1,491,829
資本剰余金	1,481,829
利益剰余金	1,319,714
自己株式	△89,947
株主資本合計	4,203,425
その他の包括利益累計額	
退職給付に係る調整累計額	28,966
その他の包括利益累計額合計	28,966
純資産合計	4,232,391
負債純資産合計	16,207,348

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年8月1日 至 2021年4月30日)
売上高	14,243,914
売上原価	4,364,472
売上総利益	9,879,441
販売費及び一般管理費	12,467,693
営業損失(△)	△2,588,252
営業外収益	
受取利息	17
助成金収入	388,752
受取清算金	199,833
その他	23,341
営業外収益合計	611,944
営業外費用	
支払利息	38,800
その他	11,901
営業外費用合計	50,701
経常損失(△)	△2,027,009
特別利益	
固定資産売却益	189
特別利益合計	189
特別損失	
固定資産除却損	42,598
減損損失	73,612
その他	14,596
特別損失合計	130,806
税金等調整前四半期純損失(△)	△2,157,627
法人税、住民税及び事業税	48,454
法人税等調整額	△742,247
法人税等合計	△693,792
四半期純損失(△)	△1,463,834
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,463,834

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年8月1日 至 2021年4月30日)
四半期純損失(△)	△1,463,834
その他の包括利益	
退職給付に係る調整額	△8,223
その他の包括利益合計	△8,223
四半期包括利益	△1,472,058
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,472,058
非支配株主に係る四半期包括利益	-

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

当社は、2020年10月21日開催の定時株主総会において承認された吸収分割契約に基づき、2021年2月1日付で持株会社体制へ移行し、飲食事業に関して有する権利義務を当社100%出資の子会社「株式会社鳥貴族分割準備会社」に承継いたしました。また同日付で、当社は商号を「株式会社鳥貴族ホールディングス」に、株式会社鳥貴族分割準備会社は「株式会社鳥貴族」に、それぞれ変更いたしました。

## 1. 取引の概要

## (1) 結合当事企業、対象となった事業の名称及びその事業の内容

吸収分割会社	株式会社鳥貴族 (2021年2月1日付で「株式会社鳥貴族ホールディングス」に商号変更)
対象事業の内容	飲食事業
吸収分割承継会社	株式会社鳥貴族分割準備会社 (2021年2月1日付で「株式会社鳥貴族」に商号変更)

## (2) 企業結合日

2021年2月1日

## (3) 企業結合の法的形式

当社を分割会社とし、当社の完全子会社である株式会社鳥貴族を承継会社とする吸収分割

## (4) 結合後企業の名称

株式会社鳥貴族

## (5) その他取引の概要に関する事項

当社は、「焼鳥屋で世の中を明るくする」という理念のもと、「298円均一(税抜)の感動」をコンセプトに焼鳥屋 鳥貴族を展開しています。低価格・高価値のサービスで、お客様に感動と驚きを提供するとともに、食の安心安全を高めるために、国産食材の使用にこだわってきました。当社は、お客様、従業員とその家族、株主様、取引業者様、鳥貴族の関わる全ての方々に感謝し、企業活動を通じて奉仕し続けることで、社会から必要とされ愛される永遠の会社を目指しております。

外食業界におきましては、人手不足を背景とした人件費の上昇、消費税率の引き上げ等に加え、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための外出自粛要請や営業時間短縮要請により、更に厳しい経営環境が続いております。

こうした状況だからこそ、社会や従業員との関わりの中で企業活動を永続していくことが大事であり、そのためには絶え間ない挑戦を続けていくことが必要であると当社は考えております。

以上の認識のもと、今般、当社は、永遠の目的として掲げる「永遠の会社」を目指して、第二、第三の創業を実現し、次世代の担い手を開発することを目的として、持株会社体制へ移行する方針を決定いたしました。

持株会社体制に移行することで、持株会社はグループの理念と目指すべき方向を示し、挑戦を支える役割を担い、事業を推進する権限と責任を事業会社に委譲することで、激変する環境のもとでも生き抜く経営体制の構築、新事業の創出、人材開発を行うこととします。

更なる挑戦として、「鳥貴族」を日本全国に「298円均一(税抜)の感動」を広げていくだけでなく、米国への出店をはじめとする海外への展開を進めるとともに、「TORIKI BURGER」をはじめとする新規事業展開により、グローバルチキンフードカンパニーを目指して参ります。



2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(追加情報)

(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

当社グループは、当第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項は以下のとおりです。

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数及び連結子会社の名称

(1) 連結子会社の数

1社

(2) 連結子会社の名称

株式会社鳥貴族

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の四半期決算日は、四半期連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

② たな卸資産

a) 製品、原材料

移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

b) 商品

移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

但し、店舗食材については最終仕入原価法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

c) 貯蔵品

最終仕入原価法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

建物（附属設備を含む）：定額法

（但し、2016年3月31日以前に取得した建物附属設備については定率法）

その他の有形固定資産：定率法

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 10～20年

工具、器具及び備品 5～6年

② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

④長期前払費用

定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当第3四半期連結累計期間に負担すべき額を計上しております。

③ 株主優待引当金

株主優待制度に伴う費用負担に備えるため、将来利用されると見込まれる額を計上しております。

④ 役員株式給付引当金

役員の株式給付に備えるため、当第3四半期連結会計期間末における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理方法

従業員の退職給付に備えるため、当第3四半期連結会計期間末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当第3四半期連結会計期間末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

③ 過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により費用処理しております。

④ 未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

(5) その他四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(セグメント情報等)

**【セグメント情報】**

当第3四半期連結累計期間(自 2020年8月1日 至 2021年4月30日)

当社グループは、飲食事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。